

『草津ビジターセンター(西の河原)』
草津の湯を守ってきた湯本氏は、武田の配下にあった真田氏(真田幸隆、真田昌幸)に仕えることとなり、草津の湯治客からとる湯銭(入湯税)の一部を真田氏に納めていた。
真田の領地は上田や沼田といった山間部にあったため米の収穫量は少なく、湯銭が重要な財源だったようだ。

『草軽電鉄路線跡』
道路の右手、少し下に細い道がある。これが多分『草軽電鉄の線路跡だと思ふ。』

『道の駅・ハッ場ふるさと館』
近くにある不動大橋(湖面2号橋)から、ダムが完成すると水没する吾妻線旧線や国道145号線旧道を見下ろす事ができるが、今回はCPなどは置かず、別の機会にゆっくり訪れたい。

『道の駅・あがつま峡』
紅葉が美しい国指定名勝・吾妻峡の入口にある道の駅。その名勝もハッ場ダムのおかげで、一部が破壊され水没する。勿論、この道の駅もハッ場ダムの関連費用で作られた施設である。

『ミュゼ(中之条町歴史と民俗の博物館)』
2CPの再スタートの中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」は、明治18年(1885年)に開校した吾妻第三小学校の建物で、明治初期の洋風学校建築の数少ない建造物として、昭和53年(1978年)に群馬県指定の重要文化財となった。その後、町の歴史民俗資料館として活用されている。

『中山城址跡』
1CPの再スタートは、国道の路側帯。この裏手の山に『中山城址』がある。北条氏の築城で、「半折囲郭構造」だそう。真田家との関係は・・・? 現地の説明板にも記載は無かった・・・。

『月夜野道路情報ターミナル』
その名の通り道路情報を提供していて、主に国道17号線の三国峠周辺の状況を得るための施設の様だ。休憩スペースもあり、駐車スペースの比率からもトラックを主に対象にした施設である。

『道の駅・中山盆地』
以前「高山温泉ふれあいプラザ」と言う日帰り温泉だけの施設だったが、昨年4月に道の駅としてオープンした。日本ロマンチック街道QRのCブロックでも立ち寄るが、スタンプラリーのチェックポイント(真田家ゆかりの地)になっており、またスタンプ帳をここで入手する必要がある。『また、ここ?』と思われる方もおられるかもしれないがご了承願いたい。

『林昌寺』
真田昌幸の叔父・矢沢頼綱が開基となって建てられた。境内にあるしだれ桜が春の名所になっている。2CPの近くに中之条が生んだ総理大臣=小淵恵三の銅像があるが、その台座には「天の時、地の利、人の和」と書かれている。今回の娘(小淵優子氏)が衆議院で当選できたのは、この文字の内容がこの地に根付いているのだから・・・。近くにおぶち優子事務所がある。

『岩櫃ふれあいの郷』
温泉センターの「くつろぎの館」、コンベンションホールの「ふれあいの館」、福祉センターの「やすらぎの館」及び、健康増進センターの「であいの館」の各施設がある。

『旧国道145号線廃道区間』

『ハッ場ダム建設地』

『長野原諏訪神社』
長野原城主は真田幸隆の舎弟、常田新六郎隆永であった。岩櫃城主・斉藤越前守憲広が、長野原城攻略に動き、長野原羽根尾城主・海野長門守幸光・能登守輝幸兄弟と、甥の斉藤弥三郎と共に長野原城址に攻め込み、諏訪神社の周辺で最大の激戦が行われた。境内に『長野原決戦の碑』がある。この後、真田幸隆は、この海野兄弟・斉藤弥三郎をまるめ込み、岩櫃城を陥落し、海野兄弟・斉藤弥三郎は真田の家臣となった。

『孺恋郷土資料館』
1Fは、天明の大飢饉の原因になった天明3年の浅間山の大噴火により、土石流で埋没した旧鎌原村の事や、その発掘調査で出土された品々が展示されている。2Fは、孺恋村特産のキャベツの栽培方法や流通、植物学や歴史、栄養特性、料理法まで、キャベツの文化と科学が展示されている。また、展望室からは浅間山や白根山も望むことができる。

『大笹関所跡』
中山道・高崎宿から分かれ、浅間山北鹿を通り鳥居峠を越えて須坂、上田方面に通じる「信州街道」に設けられていた関所で、沼田藩主の真田伊賀守によって設けられた。

第63回D-Wind Rally Course Layout

小さな黒数字はコマ図番号です。

